

第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日時 令和4年3月25日（金）10：00～

場所 岩手県民会館 第2会議室

令和3年度第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会会議録

1 開 会

(林業振興課：田村振興担当課長)

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会を開催いたします。私は進行を務めます、林業振興課の田村でございます。本日はよろしくお願いいたします。

委員の皆様には、御多用のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、お手元の次第裏面の出席者名簿のとおり、10名中9名の委員に御出席いただいております、本委員会の設置要綱第6条第2項の規定によりこの会議が成立していることを報告いたします。

なお、橋浦委員は急遽欠席となりましたので、お知らせします。

また、事務局の職員及び担当者が出席しておりますが、時間の都合上、紹介は割愛させていただきます。

また、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、3密を避けるため、県の職員は該当事業の説明時等のみ入室する職員もおりますので、御了承願います。

それでは、会議を進めさせていただきます。

今回の委員会は、次第にありますとおり、

- (1) 令和3年度いわての森林づくり推進事業の取組状況について
- (2) 令和4年度いわての森林づくり推進事業について
- (3) 令和4年度県民参加の森林づくり促進事業企画採択に係る意見聴取について
- (4) いわて環境の森整備事業モニタリング調査報告について
- (5) その他

の5項目を予定しております。

議事の進行につきましては、委員長の國崎委員にお願いいたします。

2 議事内容

- (1) 令和3年度いわての森林づくり推進事業の取組状況について
- (2) 令和4年度いわての森林づくり推進事業について

(國崎貴嗣委員長)

それでは、今日は長丁場になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

今御紹介いただきましたように、「その他」を含めて、議題が5つということで、議題の1つ目は、今年度の色々な事業の取組状況、それから2つ目は、次年度の事業についての計画、議題の1つ目と2つ目を併せて、説明していただく形で、進めさせていただきたいと思います。

色々事業がございますけれど、「環境重視の森林づくり」というふうに括られる部分について、まずは御説明をお願いします。

下記資料より、「環境重視の森林づくり」の取組についての説明

- ・資料 1-1 令和3年度いわての森林づくり推進事業の取組状況について
 - (1) いわて環境の森整備事業
 - (2) 花粉症対策等採種園事業
 - (3) 林野火災予防対策事業
- ・資料 2-1 令和4年度いわての森林づくり推進事業について
 - 1-1 いわて環境の森整備事業（混交林誘導伐）【継続】
 - 1-2 いわて環境の森整備事業（ナラ林健全化）【継続】
 - 1-3 いわて環境の森整備事業（アカマツ林広葉樹林化）【継続】
 - 1-4 いわて環境の森整備事業（森林環境再生造林）【継続】
 - 1-5 いわて環境の森整備事業（被害森林再生）【継続】
 - 1-6 いわて環境の森整備事業（枯死木除去）【継続】
 - 1-7 いわて環境の森整備事業（森林作業道整備）【継続】
 - 2 花粉症対策等採種園整備事業【継続】
 - 3 林野火災予防対策事業【継続】

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。まずは、いわて環境の森整備事業の混交林誘導伐から森林環境再生造林に関わりまして、何か御意見、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

概ね進捗率としては、100パーセント前後という項目が多いのですが、森林作業道整備が他の物と比べるとやや低めに見えるという状況で、概ね予定通りに進行しているのかと思いますが、いかがでしょうか。

そうしましたら、後で御質問、御意見をいただくとして、花粉症対策等採種園整備事業及び林野火災予防対策事業につきまして、何か御意見、御質問ございましたらよろしくお願いいたします。

よろしいですか。1月の時にも、予算額は除いた形で御説明いただいたので、委員の皆様も御理解いただいているのかなと思いますので、先に進めさせていただきたいと思います。

続いて、森林との共生というところで、たくさんございますので、県民参加の森林づくり促進事業からいわて森のゼミナール推進事業、この部分までひと括りとして、先ほどと同じように、資料1-1、資料2-1等を使っていただいて、御説明していただきたいと思います。

下記資料より、「森林との共生」の取組についての説明

- ・資料1-1 令和3年度いわての森林づくり推進事業の取組状況について
 - (4)-① 県民参加の森林づくり促進事業
 - (4)-② 森林・山村多面的機能発揮対策事業
 - (5) 「木育の推進等につながる県産木材活用」の取組
 - (6) いわて森のゼミナール推進事業
- ・資料2-1 令和4年度いわての森林づくり推進事業について
 - 4 県民参加の森林づくり促進事業【継続】
 - 5 森林・山村多面的機能発揮対策事業【継続】
 - 6 木育の推進や公益的機能の維持・増進につながる県産材の活用の取組
 - 7 いわて森のゼミナール推進事業【継続】

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。只今御説明いただきました、「県民参加の森林づくり促進事業」、「森林・山村多目的機能発揮対策事業」、「木育の推進につながる県産木材活用の取組」、「いわて森のゼミナール推進事業」の4つの事業、これらについて、何か御質問、御意見ございましたらよろしくお願いたします。若生委員よろしくお願いたします。

(若生和江委員)

木育の木に触れて、県民の皆さんに親しんでもらうということを実施に移されてきて、実感を持ってもらえて良いのではないかと思います。色々なニュースで取り上げられているので、体感してもらうことを大事にしながら、あまり説明を付けすぎなくても良いのではないかとこのところを思いました。「これはこうなります」という細かな説明を打ち出すよりも、体感してもらって、親しんでもらうという方に重きを置いて、色々な形で発信すれば良いと思います。例えば、SNS等で楽しかったということを経験していただく形での普及啓発にして、あまり説明的なところを重視しない方が良いのではないかなと思いましたので、引き続きよろしくお願したいと思ひます。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。野口委員よろしくお願いたします。

(野口麻穂子委員)

森林・山村多面的機能発揮対策事業で、今まで実際の取組を行ってきたNPOさんが、解散予定ということでしたけれども、次年度の事業の実施には支障はないという理解でよろしいですか。

(森林整備課：西澤主任主査)

来年度の事業の方には支障がない予定で、準備を進めているところでございます。

(野口麻穂子委員)

岩手県国土緑化推進委員会は、こういった形の組織なのか教えていただいてもよろしいですか。

(森林整備課：西澤主任主査)

公益社団法人国土緑化推進委員会は、イメージしやすいところでは、「緑の募金」をやっている組織になります。市町村や団体等が加入している、いわゆる公益社団法人となっております。

(野口麻穂子委員)

分かりました。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員)

他、いかがでしょうか。水野委員お願いします。

(水野匠委員)

いわての森のゼミナール推進事業の森林環境学習会ですが、令和3年度の予定で26回、進捗率100パーセントの26回実施されているようですが、令和4年度の予定では25回と、1回減らしているのは何か理由があるのでしょうか。

(森林整備課：西澤主任主査)

こちらの回数につきましては、例年25回で計画を立てさせていただいて、令和3年度は終了見込みとして26回と書かせていただいております。計画については、毎年25回で、それ以上実施していただくということを条件に企画コンペをさせていただいております。

(水野匠委員)

分かりました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら、森林との共生について、資料1-1、横長のものでいくと、4ページの(7)森林公園機能強化事業というところから、全国植樹祭開催準備、いわての森林づくり推進人材育成事業、いわての森林づくり普及啓発事業、それから資料2-1と説明いただいて、さらに資料2-2ということで、次年度の予算についての資料がございますので、これらについての説明をよろしくお願いたします。

下記資料より、「森林との共生」の取組についての説明

- ・資料 1-1 令和 3 年度いわての森林づくり推進事業の取組状況について
 - (7) 森林公園機能強化事業
 - (8) 全国植樹祭開催準備事業
 - (9) いわて森林づくり推進人材育成事業
 - (10) いわて森林づくり普及啓発事業
- ・資料 1-2 令和 3 年度「いわての森林づくり県民税」に係る県民意識アンケート調査結果について【概要版】
- ・資料 2-1 令和 4 年度いわての森林づくり推進事業について
 - 8 森林公園機能強化事業【継続】
 - 9 全国植樹祭開催準備事業【継続】
 - 10 いわて森林づくり普及啓発事業【継続】
 - 11 いわて森林づくり推進人材育成事業【継続】
- ・資料 2-2 令和 4 年度いわての森林づくり促進事業の予算について

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。たくさんありますけれども、何か御質問、御意見等ございましたら、よろしく申し上げます。岩田委員、よろしく申し上げます。

(岩田智委員)

いわて森林づくり推進人材育成事業についてですが、岩手には、いわて森林づくりコーディネーターと地域アドバイザーがありますが、具体的にはどのような違いがあるのか教えていただけませんか。

(森林整備課：橋本主任主査)

いわて森林づくり推進人材育成事業で育成するコーディネーターですけれども、元々の資格要件を設定しております。例えば、林業普及指導員等のベースになる部分があり、更に研修でスキルを高めていただくということを考えておりますが、元々のベースになる部分がない方につきましては、林業技術センターで実施している「地域林政アドバイザー養成研修」というものを、受けていただくように、こちらを派遣研修ということで設定させていただいております。内容的には、市町村の初任者研修の内容とイコールとなっております、導入部分とか、林政全般でございます。森林づくりコーディネーターと地域アドバイザーはイコールではないということです。

(國崎貴嗣委員長)

よろしいですか。

(岩田智委員)

仕事内容的には、どのように違うのでしょうか。

(森林整備課：橋本主任主査)

地域林政アドバイザーは、市町村で、なかなか専門的な職員を雇えるところがないのですが、専門的な知識を持つ人材として働いていらっしゃいます。コーディネーターの方は、地域の森林整備が行き届いていない森林所有者にお声がけをして、森林整備事業や県民参加の森林づくり促進事業に繋げていくような業務を行っています。地域の森林整備活動の核となるような方ということで、例えば、森林組合の職員や、県民参加の森林づくりの促進事業の活動組織のリーダーの方とか、そういった方々が受けていらっしゃいます。

(岩田智委員)

どうもありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

佐藤重昭委員、よろしくお願いします。

(佐藤重昭委員)

森林公園機能強化事業で、屋外に作られた木製製品、遊歩道、階段等については経年劣化が懸念されますが、定期的にメンテナンスのことをお話ししていただければと思っております。いかがでしょうか。

また、県民税制度を長くやってきているなかで、認知度が上がってきてはいますが、まだまだなところもありますので、全国植樹祭はいい機会になると思います。色々ところでPRをするための窓口等があったら良いなと思っています。

基金については、大体7億円弱を積み立てているのですが、今どれくらい積み上がっていて、事業に回せる金額がどれくらいあるか知りたいです。

(森林整備課：西澤主任主査)

ありがとうございます。森林公園機能強化事業においては、色々と整備させていただき、木材を積極的に活用していきたいと思います。委員の御指摘の通り、木製ですので、時間の経過とともに屋外のものが劣化してしまうのはどうしてもやむを得ないところですが、県の森林公園等につきましては、多くの方に利用していただく施設ですので、安全第一はもちろんのことでございます。管理しながら、劣化してきて危険だというものは除去し、適切に管理していきたいと考えております。以上です。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございました。県民税の周知で、我々も協力できる場所はしたいと思いますが、講演等をどんどんお願いした方が良いのではないのでしょうか。

(森林整備課：西澤主任主査)

そうですね。今回に関しましては、先程お話しの中にもございましたが、全国植樹祭というイベ

ントがございまして、県民の皆さんに触れていただいて、名前を認知していただくということを進めてまいりたいと思っております。もちろん木育や通常の事業の中でも、県民税を活用して実施しているということで、生活等にも役に立っているという実感をしていただくことで、広げていきたいと思っております。色々なチャンネルを持つということは大切なことだと思いますので、検討しながら考えていきたいと思っております。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございます。事業費は基金へどれくらい積み上がっているのか、簡単に教えていただきたいと思えます。

(林業振興課：岩崎主任主査)

基金につきましては、令和3年度末は見込みでございますけれども、残額として約23億円程度と見込んでおります。前年度はもう少しあったのですが、令和3年度に少し事業を拡大いたしまして、基金の残額は少し減って23億円程度となっております。令和4年度にこのまま今の予算規模で実行した場合、18億円程度に減る見通しでございます。残額につきましては、第3期までに間伐等を実施できなかった部分が積み上がった分でしたので、これを第4期の環境の森整備事業の強度間伐の方に重点的に配分いたしまして、第4期中には大幅に基金の残額が減っていく見込となっております。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。若生委員よろしく申し上げます。

(若生和江委員)

森林公園の整備については、森林公園の現状と今の課題が、合致している形での整備になっていることやそれぞれの公園の特性に応じた要望に対して木材の利用がそこにつながるような形で活かされていることが、とても良いことだと嬉しく思っております。

県民税を色々なところで活用していますというところが、より伝わると良いなと思うのですが、「皆さんから頂いたものが、環境保全につながっているのですよ」というところのPRが、嫌味なくできると良いなと思います。

また、いわての森林づくりコーディネーターを受講して修了された方のその後がどういう風になったのかというところが、一番知りたいところです。修了なさった方が、地域においてどんな活躍をされているか、市町村の国の森林環境譲与税の活動のところであまくなぎ役になっているか、どんなスキルを身に付けられたか、というところが分かれば良いと思います。講習の時には、目的等について説明されているかと思いますが、そこが一般の県民に伝わっていないところがあるので、その辺りが伝わると良いと思います。

(國崎貴嗣委員長)

今のところで、県の方から特にありませんか。

(森林整備課：橋本主任主査)

はい。ありがとうございます。今おっしゃっていただいた通りです。こちらの方々は、この事業の県のホームページに載せていて、人材育成のホームページで情報発信等はしています。今、6名の方を認定したところで、ホームページへの掲載の了解を取れた方については、名簿の方を公表する予定としております。

こういった人材を育成しましたということは、認定されている方が、所属する市町村にもお知らせしております、今後、森林林業の専門家や人材として、各方面で御活用いただけるように働きかけて、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

(森林整備課：西澤主任主査)

全国植樹祭担当の西澤でございます。委員の皆様から御意見がございました通り、全国植樹祭は非常に注目度が高いイベントでございます。普段、森林とか林業に関わりのない県民の皆様が注目いただける絶好の機会ととらえておりますので、様々な媒体等、様々な機会をとらえまして、県民税の取り組みについて発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(國崎貴嗣委員長)

村中委員、よろしくお願いたします。

(村中ゆり子委員)

いわて森林づくり普及啓発事業について、県民税でこういう風にしてもらったという実感があると、すごく良い取り組みだなというふうに伝わると思っています。チラシなどがあるというよりも、事業の恩恵を受けるとより実感が湧くと、同じようなグループの人たちの方に広がっていくかなと思います。

私事になるのですが、うちの幼稚園は山の近くにあり、山登りで遊ぶ機会があるのですが、整備が大変で、この事業があると分かって申し込みたいと思い、申込用紙をいただきましたが、計画を立てようと思ったらとても難しく、今回はあきらめてしまいました。申込みの仕方等が分かりやすく示されれば、もう1回チャレンジしたいと思っています。本当に良い取組をたくさんなさっているので、それがより広く伝わっていただければと思います。

また、小学校5年生に配っている「いわての森林の恵ガイドブック」は、配っただけでは活用されないのかなと思います。例えば、岩手県は広いですので、木のそば、山の中の木を活用した環境の学校等に使っていただくような工夫が必要だと思います。

森林学習は魅力的なのですが、バス代の関係等で実施が難しい学校もあると思っておりますので、そういうところに何か補助があると、更に参加しやすくなることもあるかなと思っております。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。大変貴重な御意見を各委員からいただいておりますので、ぜひ来年度以降の色々な取り組みに、御考慮いただくと共に、委員会等でも御照会いただけると大変ありがたいなと思います。

それでは、議題(3) 令和4年度県民参加の森林づくり促進事業企画採択に係る意見聴取について、こちらの方に移らせていただきたいと思います。村上さんよろしく申し上げます。

(3) 令和4年度県民参加の森林づくり促進事業企画採択に係る意見聴取について

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・ 審査番号1 団体名「一般社団法人 東北地域環境計画研究所」
事業名「イヌワシの森整備事業」
- ・ 審査番号2 団体名「森守の盛」
事業名「森守の盛森林整備事業 2022」
- ・ 審査番号3 団体名「生母生産森林」
事業名「ボランティア等による草刈り、忌避剤散布等の森林整備活動」
- ・ 審査番号4 団体名「NPO法人遠野エコネット」
事業名「森林ボランティア育成事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。それでは、審査番号1番の団体ですが、何か御意見等ございますか。今回は、いずれも複数回の採用回数を経ているということと、この予算額だけを見ると、昨年度と同様の額で申請されているということも補足させていただきます。では、いかがでしょうか。佐藤重昭委員、よろしく申し上げます。

(佐藤重昭委員)

審査番号1と4に関しては、今回採択される9割以上が、マスク着用や手の消毒を項目に入れているので、実施にあたって入れていただいた方が良いのかなと思いました。1番に関しては、由井先生のイヌワシもだいぶ長くなってきていまして、実際のところイヌワシは増えているのかどうか、すごく関心があります。他の事業から見ると、継続で採択されている事業は特殊ですよ。生態系が良くなってきているのでしょうか。

(林業振興課：村上主任主査)

イヌワシが減らないような環境整備を行っていくということが大事というのはあったのですが、頭数については確認させていただきます。もし振興局の方から補足ございましたらお願いいたします。

(盛岡広域振興局：小澤上席林業普及指導員)

盛岡振興局林務部の小澤でございます。よろしくお願いたします。団体の方にイヌワシの生息状況について確認しましたところ、毎年、繁殖活動は行っているということですが、ヒナが生まれても、カメラマンの接近や熊の襲撃等、外敵の要因がありまして、ここ数年はヒナの育ちには至っていないということでございます。ただこの場所に、イヌワシのペアが住み続けているということから、少なくともこの研究会の活動によって餌場の確保はできていると考えております。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。よろしいですか。

(佐藤重昭委員)

はい。大丈夫です。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。佐藤貴美子委員、お願いします。

(佐藤貴美子委員)

4番のNPO法人遠野エコネットの自然観察会に、森人倶楽部の方で参加させていただいた感想だけお伝えしたいのですが、講師は、西和賀のカタクリの会の瀬川さんという方がいらっしゃって、その土地で何が育っているか等、今までイメージしていた観察会と違い、とても楽しく参加させていただきましたので、今後もそういった深く教わるような観察会なども増えていただければ良いなと思いました。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。1番から4番までということで、御意見いただければということで、仕切り直しをさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。他、2番3番含めて、何かございましたら。

よろしいですかね。次は、審査番号5番から7番です。よろしくお願いたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・審査番号5 団体名「森を考える会」
事業名「楽しい森林・林業体験事業」
- ・審査番号6 団体名「岩泉まつたけ事業協同組合」
事業名「岩泉まつたけ山づくり協力隊事業」
- ・審査番号7 団体名「くじ☆ラボ」
事業名「平庭高原ガーデニング『日本一の白樺美林』魅力アップ事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。それでは何番からでも構いませんので、御意見ございましたらよろしく
お願いいたします。岩田委員、お願いします。

(岩田智委員)

6番の「岩泉まつたけ山づくり協力隊事業」は昨年も採択されたのですか。昨年も出たと思うの
ですが、マツタケの山を整備して、マツタケの収益を取っているわけですから、事業者が整備する
のがスジであって、この税金を使って整備することがよく分からないのですが、それはどういう風
に解釈したらよろしいでしょうか。

(林業振興課：村上主任主査)

こちらについては、ボランティアということで収益が生じないように配布ということにしてい
るのですが、詳しくは振興局の方から答えさせていただきます。

(宮古農林振興センター岩泉林務出張所：須藤上席林業普及指導員)

岩泉林務出張所の須藤と申します。取れたマツタケは特段売るということはなく、3か所で分け
るという形にし、昨年も取えてそのようにしていて、今年もその形で実施しておりまして、来年度
以降も同じ形でいこうと考えているということです。今回の事業は森林の整備ということで、副産
物としてたまたまマツタケが取れば良いということで、アカマツ山の整備ということで、この事
業を実施していると認識しております。

(國崎貴嗣委員長)

キノコがたくさん生えるための整備というのも、広い意味での森林整備ですので、そういうもの
を通じた環境学習、学びというふうに捉えれば、この事業の趣旨には合致するかなと思います。岩
田委員が御懸念のことについては、昨年度の時にもその旨を伝えて、事業者が儲けることになら
ないような対応ということでお願いして、実施していただいているところです。それを聴取して次年
度もこういう取り組みをされたいということだと思います。

(岩田智委員)

はい。

(國崎貴嗣委員長)

他いかがでしょうか。佐藤重昭委員、よろしく申し上げます。

(佐藤重昭委員)

6番にマスク、手洗い、消毒が入っていませんので、入れていただきたいです。

補助対象額の比較、増減、昨年購入したものを使うことですので節約いただいて、見た目もす
ぐ良いのですが、振興課の方で審査する時に、備考のところ、こういうふうに昨年買ったものを

使用するか、備考に書いてもらいたいなと思いました。

それから7番も結構頑張ってずっとやっているのですが、活着率がどの程度うまくいっているのかというのをお聞きしたいです。この2点でございます。以上です。

(林業振興課：村上主任主査)

はい。ありがとうございます。備考欄につきましては、おっしゃる通り増減理由等を分かりやすくなるように記載させていただいていましたが、報償費や旅費、比較要因というところを入れていくと、より分かりやすいのかなと思いますので、次回に向けて徹底していきたいと考えています。

「くじ☆ラボ」の活着率につきましては、振興局の方から御説明いたします。

(県北広域振興局林務部：田澤技師)

県北広域振興局林務部の田澤と申します。活着率ですけれども、今年度から久慈市の方で、平庭高原の白樺林の再生に向けた再生プロジェクトということで、岩手大学や森林総研と共同で研究をいろいろ進めて、科学的な知見を集めているところです。

現在、実際に植えられている木というものは、少し枯死してしまうものも若干あるのですが、大体の感覚的には、7割程度は今のところ活着はしております、ただその環境として、どこに植えるのが適切なのかというのは、そういった研究機関の方からアドバイスを頂きながら、来年度以降も白樺林の再生が出来るように取り組んでいきたいと考えているところです。

(佐藤重昭委員)

はい。ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。水野委員、よろしくお願いします。

(水野匠委員)

はい。審査番号6番のところですけど、備考のところ、需用費とかで、昨年購入費の残りを使って実施されるようですが、例えば普通の補助金であれば、昨年度と比べて多く変わったというような意味合いなのでしょうか。どのような形になっているのか教えていただければと思います。

(宮古農林振興センター岩泉林務出張所：須藤上席林業普及指導員)

需用費の昨年度の残りという記載だと、語弊があったと思うのですが、鉋やノコギリを購入するのに需用費が5万円となっていて、昨年度購入したものがそのまま使えるということで、こちらの分が減額となっていました。備品購入というのは、5万円を超えると思うので、いずれ5年間使うということでやらせていただいております。よろしくお願いします。

(國崎貴嗣委員長)

吉野委員、よろしくお願いします。

(吉野英岐委員)

個別の事例ではなく、全体の実施状況について伺います。何度も採決されているところは、過去に事業実績書というものを出していると思うのですよね。これは、広域振興局長が受け取って、それで、書類検査と現地検査を行うというように実施要領には書いてあって、この事業実績書というのはいつ頃出てきているのですか。

(林業振興課：村上主任主査)

事業が終わり次第速やかにということですので、基本3月までかかるものもあるので、今まさに頑張ってお出しているところなんです。

(吉野英岐委員)

最終的には何月までに出てくるのですか。

(林業振興課：村上主任主査)

3月末までです。

3月に出して、11月に事業を終わらせるということにしているので、3月末までには出してもらって、5月の出納閉鎖期間までに支払いをするという形になります。

(吉野英岐委員)

分かりました。実際に事業実績と会計的な報告がされてきて、それが適正に行われているというのは当然前提にはなって、次の年の採択に行くと思います。事業実績書を一度も見たことがなく、継続して行われていることの効果や的確さというのが、何によって検証されるのか分からなかったです。いつまで頑張り続けるか、どういう効果が出ているかというのは、県庁の方には届いているとは思いますが、評価委員や県民の皆さんにも、事業採択した結果がどのように出てきているか見せていただけると、継続可否の判断材料にもなるのかなと思います。申請書類だと去年との比較はできるのですが、それは会計上の話であって、事業実績上の話というのは、ほとんど実は分からないままです。どういうふうにフィードバックされるのか、県民の方々に事業実績はどのように返されるのかという点を教えてください。

(林業振興課：村上主任主査)

御意見、ありがとうございます。事業の効果につきましては、企画書の3番に、「事業の効果」というところがあって、そこに書いてもらうことにはなっているのですが、確かに、数量的なところや目に見えるようなところが具体的ではないような感じはいたします。様式としては、企画採択する時にきちんと需要効果があるというところは、形式的にもこの様式上で確認する手続きは踏んでおりますが、書きぶりが物足りないかなというのは、もしかするとあるかもしれません。振興局と連携しまして、団体等に伝えて、もう少し見えるような形で、効果を判定できるような企画書にしていきたいと考えております。

それから、事業実績の県民へのフィードバックというところで、これにつきましては少し相談をさせていただきたいと思います。発信できるような形で、フィードバックできるようなものを少し考えていきたいと思います。

(吉野英岐委員)

審査と関係ない話になったのですが、色々な民間団体でも、事業採択をした後にホームページや冊子で、こういった実績がありましたというのを、出しているところが多いと思います。具体的な活動がどういうものだろうかということが、県の関心のある方には、お知らせした方が良くはないかと思います。

我々は入口の審査をやっているわけですが、結果についての審査は1回もやったことがないので、審査というか報告も実績報告書も一度も見たことがありません。結果について、どのように評価し、それを広報し、来年度の審査をどういうふうに進めるのかというところに繋がるのかなと思います。今のタイミングで言うのは良いタイミングなのかどうかわからなかったのですが、そういうやり方もあるのではないのかと思って申し上げました。以上です。

(林業振興課：田村振興担当課長)

林業振興課の田村でございます。今、委員から御指摘がありました通り、第1回評価委員会では、一覧表と各団体の取り組みということで、かいつまんでお示ししているような状態になっております。これをどのように全体を見せていくかというのを、次期の実績報告書を作るときに充分検討して、県民の皆様が見て、納得できるような報告書作りに努めていきますので、暫しお時間をいただければと思います。

(吉野英岐委員)

ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。私も次年度の第1回の報告書のところで、委員にはそれで御説明いただいて、ホームページもアップになりますので、それで、うまく県民の皆様にも周知する形というのが、一番無理がないのかなと思います。今、田村課長さんがおっしゃった通りの形で、うまく盛り込んでいただければよろしいのかなと思います。

ということで、もう12時を過ぎておりますので、一先ずここまでということで、区切りたいと思います。再開時間等は事務局の方から、お示しいただければと思います。

よろしく願いいたします。

(林業振興課：田村振興担当課長)

それでは、昼食についての御案内をいたします。昼食は現在お座りいただいている席に係りの者が御用意いたしますので、その場でお召いただくようお願いいたします。会議再開時間は、13時5分から始めさせていただきます。また、村中委員は所用のため、ここで退席となります。ありがと

うございました。それから、橋本林務担当技監ですが、所用のため午後は退席となります。御理解をお願いいたします。以上でございます。

(休憩)

(國崎貴嗣委員長)

時間となりましたので、再開してよろしいでしょうか。それでは、予定していた 13 時 5 分となりましたので、午後の部を始めたいと思います。

午前中は審査番号の 7 番まで、御質問御意見等をいただきました。午後は 8 番から 11 番について、まずは御説明をお願いしたいと思います。

(林業振興課：村上主任主査)

資料 3 より、下記団体の企画概要書の説明

- ・ 審査番号 8 団体名「間伐ボランティアいわて」
事業名「いわて森林づくり県民税活用事業」
- ・ 審査番号 9 団体名「NPO 法人紫波みらい研究所」
事業名「紫波みらい研究所里山づくりプロジェクト」
- ・ 審査番号 10 団体名「NPO 法人いわて森林再生研究所」
事業名「森のチェーンソー講座（森林作業の安全技術研修）」
- ・ 審査番号 11 団体名「一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構」
事業名「釜石市・一戸町における山守育成プロジェクト」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。審査番号 8 番というのが午前中から引き続きで、「森林整備」の方の事業でございまして、9 番から 11 番というところが、「人材育成」という事業区分になっております。はい、佐藤重昭委員、お願いします。

(佐藤重昭委員)

違う団体ですけど、9 番の紫波みらい研究所と、10 番のいわて森林再生研究所がたまたま同じところで買っていたらあって、特に 10 番の方は、修繕費の機械だし、このシラカバ機械さんというのは、結構有名なところなのではないでしょうか。ここでしか買えないものとかあるのでしょうか。違う団体が同じところで買っていたので、気になっただけです。以上です。

(林業振興課：村上主任主査)

振興局からお願いします。

(盛岡広域振興局林務部：小澤上席林業普及指導員)

盛岡振興局林務部です。確かにシラカバ機械の方から機械を購入されている団体が何団体かあるのですけれども、今までこのシラカバ機械から購入されていたという実績があるということと、岩手町の業者ですけれども、こういった機械を多数取り扱っている業者というふうに伺っております。

(佐藤重昭委員)

一応、3社から取るとかそういうふうになっていたように認識しておりましたので。

(林業振興課：村上主任主査)

複数見積を取って、入札等の手続きは踏むことになっておりまして、企画応募の段階なので、目安として見積を添付しているところです。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。佐藤貴美子委員お願いします。

(佐藤貴美子委員)

11番の一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構の事業の原木椎茸体験についてなんですけれども、7ページの一番下の原材料費に椎茸原木200本とありますが、この体験会自体が1日10名程度、2日間で200本となっているのですが、これは持ち帰っていただく等、何か活用されるという予定はあるのでしょうか。

(沿岸広域振興局農林部：田島上席林業普及指導員)

沿岸振興局の林務の田島と申します。穴をあけて植菌をしたシイタケについては、持ち帰っていただくのではなく、そのままホダ場で講師の方に育てていただいて、また翌年度、翌々年度以降の収穫体験であるとか、そういったもので使っていけるようにしていきたいと思っております。

(佐藤貴美子委員)

ありがとうございます。収穫体験は、また別の方を新たに募集して行うという形ですか。

(沿岸広域振興局農林部：田島上席林業普及指導員)

そうですね。今回はシイタケの植菌体験ですけれども、収穫できるようになるには、夏を2回経過しないとできませんので、実際の収穫となると、翌々年からの企画になると思います。

(佐藤貴美子委員)

ありがとうございます。ではその間の菌木の管理については、どなたがやられるのでしょうか。

(沿岸広域振興局農林部：田島上席林業普及指導員)

講師を古川さんに依頼すると記載がありますが、実際に古川さんの作業場を借りて、植菌体験をするということにしておりまして、古川さんのホダ場でしばらくの間管理をしていただくことを考えております。

(佐藤貴美子委員)

分かりました。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。よろしいですか。続いて、森林環境学習の事業区分に入っていくということで、12番から15番の説明をよろしくお願いいたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・ 審査番号 12 団体名「いわて森林シンストラクター会」
事業名「里山公園の活用と整備－小鹿公園自然観察会：小鹿めぐり－」
- ・ 審査番号 13 団体名「鹿妻穴堰土地改良区」
事業名「県民参加の森林づくり促進事業」
- ・ 審査番号 14 団体名「特定非営利活動法人 日本メイプル協会」
事業名「視覚障がい者のための「森の探検隊」
- ・ 審査番号 15 団体名「なのりの里 生き活きプロジェクト」
事業名「なのりの里 生き活きプロジェクト事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。12番から15番ということで、4つですけども、どこからでも構いませんので、御質問、御意見ございましたら、よろしくお願いいたします。佐藤重昭委員、よろしくお願いいたします。

(佐藤重昭委員)

14番ですけど、こちら、日本メイプル協会は長くやってきているところですが、比較増減のところ、30万くらい出ているのですが、コロナのせいで、参加が少ないということでよろしいでしょうか。

(盛岡広域振興局林務部：小澤上席林業普及指導員)

参加者というよりも、実施回数を半分に減らしたということです。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。水野委員よろしくお願いします。

(水野匠委員)

12番ですが、こちらの小鹿公園というのは盛岡市の所有ということみたいですが、そういった盛岡市の所有のところの伐採というのを、こういう団体が勝手にやって良いものかどうか。

(林業振興課：村上主任主査)

宮古市などでも、森を守る会という形でやっているところもあるので、基本的には森林伐採というよりは、中身が森林環境学習ということで、伐採や森林整備の取り組みを行いながら、環境学習を図っていくという趣旨なので、良いのかと捉えておりました。もちろん、盛岡市と調整は図っていて、伐採するとかそういうところは、事業を実施する上で調整済みでございます。

(水野匠委員)

はい。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

小鹿公園のことで、うちの大学の卒業論文に書いた学生がおりまして、それで状況は承知しておりますけれど、なかなか予算が無くて管理ができないということです。割と四十四田ダムのあるところにある立派な公園ですけども、結構広いものですから、手入れが進んでおらず、結構薄暗くて、危険なところや使えなくなっている遊具がそのまま設置されたままのところがあり、色々と地域の方や関係者が関わりながら整備していくということが大事ということ、卒業論文の中で私も聞かせてもらいました。そのなかのやり取りで、県民税等の事業を活用して、こういった整備を地域の人がやるのも手段として考えられるというアドバイスをしたからかは分かりませんが、こういう形で上がってきたというのは、大変喜ばしいと思います。絶対に必要な地域の貴重な緑の資源なんですけれど、なかなか管理に課題を抱えているので、私としては、これは適切な事業と受け取った次第でございます。他、いかがでしょうか。若生委員、どうぞ。

(若生和江委員)

先程のいわて森林インストラクター会の方たちの事業とか、午前中の森守の盛の事業とか、学生が関わる機会を作っている事業があるところが多いと思っていて、新しい森林の色々なことを伝える「伝承する人」というか、指導できる人というのが、育つ場にもなると思います。そういう場というのはとても貴重だし、これからも伸ばして行ければ良いのではないかなと思いつつ見ました。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

はい。他、いかがですか。よろしいでしょうか。はい。そうしましたら、次に進みたいと思います。次はですね、16番から19番に引き続き森林環境学習に関わるところでございますけれども、説明をよろしくお願いいたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・審査番号16 団体名「ノースジャパン素材流通協同組合」
事業名「青年部会「げんき森林（もり）モリフェスティバル」」
- ・審査番号17 団体名「滝沢里山研究会」
事業名「地域の森を活かす 滝沢森の体験会」
- ・審査番号18 団体名「ツリークライミング®クラブやまねっこ」
事業名「ツリークライミング®体験と森林勉強会2022」
- ・審査番号19 団体名「特定非営利活動法人 わらしやんど雫石」
事業名「令和4年度いわての森とふれあう森林体験学習推進事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。それではどこからでも構いませんので、御質問、御意見ありましたら、よろしくお願いいたします。佐藤重昭委員、よろしくお願いいたします。

(佐藤重昭委員)

16番ですが、ノースジャパンさんの2ページ目に、「本イベントについては令和3年8月に第1回を開催済みであり、第2回の今回は、同日に同会場で開催する「第73回全国植樹祭1年前プレイベント」の開催行事として開催する」とありますけれど、そういう形で、これは具体的に何か県としてとか、全県で何かやるようなことはあるのでしょうか。

(林業振興課：田村振興担当課長)

全国植樹祭のプレイベントといたしまして、先程も説明がありました通り、子供たちを中心に県民の森で植樹とか、そういうものを行うということ聞いております。それは、植樹だけ行うのではなくて、様々な協賛団体と言いますか、関係団体が、それぞれその機会に、岩手の森林林業をアピールするという事となっております。当課においても、木材の利用だとか、あとは県民税の取り組みだとか、そういうものを森林林業について、広く周知する機会と思っておりましたので、この団体がまさに手を貸してくれるというような形になっております。

(佐藤重昭委員)

はい。ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょう。野口委員、お願いします。

(野口麻穂子委員)

17 番の活動については、会費で整備活動をしているということなので、森林整備の枠にも入るような感じもするのですけれども、その辺は、どういう分け方になっているのか教えていただけたらありがたいです。

(林業振興課：村上主任主査)

ありがとうございます。なかなか仕分けがわかりにくい部分ですけれども、基本的には、学習とかの要素があった時には、森林環境学習の方に、整備をしっかりやるものについては、森林整備の方と分けております。被っている部分もありまして、企画書を読みながら、強く、色濃く出ている方を主の区分としています。

(野口麻穂子委員)

分かりました。ありがとうございます。

(林業振興課：村上主任主査) すみません。

(野口麻穂子委員)

最終的には同じ事業なので、そこは、そんなに気にしても仕方ないのかと思いますけれども、質問させていただきました。ありがとうございます。

(林業振興課：村上主任主査)

ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

若生委員、お願いします。

(若生和江委員)

同じく 17 番のところですが、木を伐るというわけでもなく、薪取りもするので、自分たちで技量があるので、特に講師を立てることもなく、自分たちで薪作りのボランティアを行うという感じなのかなと思いながら拝見したのですけれども、安全にできるように、学びながらそういう技術も身に付けてもらい、薪作りをするみたいな活動にしてもらっても良いのかなと思いました。最小限の経費を計上していただいているのかと思ったのですけれども、この活動を進める方自身がそういう色々な技能を持ってらっしゃるので、その部分がこの予算の中には書き込まれていないのかなと思うのですけれども、伺っていただいて、もし足す必要があれば、足していただいて、楽しく活動してもらえれば良いのではないかなと思います。

(盛岡広域振興局林務部：小澤上席林業普及指導員)

こちらの滝沢里山研究会ですけれども、この県民参加の森林づくり促進事業ではなくて、多面的機能の方で、元々森林整備活動をやっていた方々で、多面的機能で出来ない部分をやっているところですよ。薪作りボランティアとか、そちらの方でやっていて、元々その伐採とかの技術がある方々の団体となっています。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ということで、続いてですね、20番から23番の御説明をよろしくお願いいたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・ 審査番号 20 団体名「金沢生産森林組合」
事業名「森林総合学習」
- ・ 審査番号 21 団体名「地緑団体奥玉愛林公益会」
事業名「どんぐりの森づくり大作戦」
- ・ 審査番号 22 団体名「ノームの会」
事業名「ノームの森づくり事業」
- ・ 審査番号 23 団体名「遠野市」
事業名「とおの里山美林推進事業」

(國崎貴嗣委員長)

はい。それでは20番から23番の4点ということですが、何か御質問、御意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。いずれも、複数の実績の回数がある団体さんでございます。いかがでしょうか。よろしいですか。そうしましたら、休憩時間がなかなか取れなくて申し訳ありませんけれども、続けていきたいと思っております。続いて、今度は24番から27番というところで、いわゆる、森林環境学習の4つということで、引き続き御説明をよろしくお願いいたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・ 審査番号 24 団体名「宮古市」
事業名「みやこ市民の森づくり事業」
- ・ 審査番号 25 団体名「久慈地方木材青壮年協議会」
事業名「親子で木とのふれあい体験」
- ・ 審査番号 26 団体名「久慈しいたけ生産推進協議会」
事業名「原木しいたけ産業体験事業」
- ・ 審査番号 27 団体名「馬淵川上流流域森林・林業活性化センター」
事業名「令和4年度カシオペアフォレストスクール事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。岩田委員、よろしく申し上げます。

(岩田智委員)

25 番の「親子で木とのふれあい体験」ですが、保険に加入されているようですが、死亡後遺症保険が 358 万円で、これは中でも一番低いですよ。他のものは、500 万円とか、高いところで 1,000 万円とかあるのですけれど、金額については、何か指導等はあるのでしょうか。

(林業振興課：村上主任主査)

金額については、特に指導等はありません。保険には必ず、安全面から加入することという規定となっております。こちらにつきましては、おそらく、森林整備やチェーンソー等を使うというような中身ではなく、比較的短時間ですので、保険額が低めのものに入っているのかなと考えてございました。

(岩田智委員)

ありがとうございました。後遺障害が死亡保険と同じ金額になるものですから。小学生だと、後遺障害が 500 万円は全然足りないですね。指導の段階で、高いものに入っただけのような指導はできないかなと思っています。

(林業振興課：村上主任主査)

もし、その事業費とかが、少し上がっても良いということで、御了解いただけるのであれば、団体には話をしたいと考えてございます。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。吉野委員、よろしく申し上げます。

(吉野英岐委員)

24 番の宮古市から「みやこ市民の森づくり事業」ですけれども、念には念を入れてかもしれないですけども、AED 賃貸料というのが仕様書に入っているのですが、AED は、心臓にショックを与えるものだと思うのですが、他の団体さんには、特段そういうのはなくて、必ず付けないといけないというものでもないと思うのですが、宮古市さんは昨年も 1 台付けています。宮古市の基準で、何か屋外でイベントをする際は、AED を必ず側に置くようにというような指導があるということなのですか。

(宮古農林振興センター林務室：森技師)

宮古林務室の森と申します。AED について、例年、賃借料を計上しているということで、市の方で、そういう決まりがあるのかどうかということまでは確認してはおりませんでした。

(吉野英岐委員)

県としては、保険は必ず付けるようにという御指導をされていますが、AEDについては、例えば、遠隔地で事業を行った場合、近隣にAEDの手配がつかないとか、何キロ以上AEDの配置場所から離れているとか、何かそういう基準はあるのですか。

(林業振興課：村上主任主査)

県の基準を確認するところからだと思います。確かにおっしゃる通り、森林の中等で作業するとなると、なかなかAEDがないということはあるとは思いますが。そういった場所での取り扱いは、他の林務の中の事業等の中で探してみたいと思います。

(吉野英岐委員)

他に1件も入っていないので、他は良いのかと逆に心配になったので。市街地でやる分には、手配可能だということで、安全対策になるのですが、先ほど言った遠隔地やすぐに手配ができない時にもしという時には、必ず入れることとか、何かあった方がいいかと思えます。団体によっては、入れるべきかどうか分からないということが、起きるのかなと思って聞いてみました。宮古市は、宮古市の基準がなければ、ここまでやらないのかなと思ったところもあります。あればあった方が良いのかなということでした。知っていますか。そういう事例を。

(國崎貴嗣委員長)

存じ上げないですが、調査・検討をお願いしたいと思います。

(若生和江委員)

誰でもそれを操作できるのか、一応、研修を受けないと借りられないとかとかそういうこともありますよね。

(國崎貴嗣委員長)

それはありますね。

(若生和江委員)

そういうふうに聞きましたので、もし借りるとすれば、取り扱える者が在籍するということと合わせてとなると思うので、よろしくをお願いします。

(吉野英岐委員)

予算だけ見ると、去年、1台増やしているみたいな感じですね。何か事情があるのですかね。分かりませんか。林務者は必ず持っているものですか。

(林業振興課：村上主任主査)

周りの方に聞くとあまり持ってないという感じです。

(吉野英岐委員)

持たないといけないという訳でもない。

(林業振興課：村上主任主査)

そうですね。逆に言うと、何かあったからそういうふうになっているのかもしれないですので、聞いてみたいと思います。

(吉野英岐委員)

もし事情が分かれば教えていただきたいです。

(林業振興課：村上主任主査)

かしこまりました。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

大切な論点だったと思います。他、いかがでしょう。では、野口委員、よろしくお願いします。

(野口麻穂子委員)

25 番の活動につきまして、管理人さんのところで、材料を見積りしているような感じになっているように拝見しますけれども、その辺というのは制度上、大丈夫なものなのですか。

(林業振興課：村上主任主査)

こちらにつきましては、仮の見積もりというふうな形で、複数見積等を取りながら、一番安い価格のところと契約したり、購入したりということにはなります。ただ、組合員ということですが、もしかしたら、地域の中で地域材を使う時に、どうしてもここではないとだめだというところがあるかもしれないので、そこは振興局を通じて確認しながら、事業を運営していきたいと思えます。

(野口麻穂子委員)

ありがとうございます。今、地域材というお話が出ましたけれども、地域材の利用というところが、書いていなかったのも、おそらく実際はそうされているのではないだろうかと想像しますが、そういったところも企画書に書いていただく等、普及啓発の際にもアピールしていただけたら良いのではないかと思います。

(林業振興課：村上主任主査)

御指摘、承りました。事業の内容のところの2行目のあたりに「地域材を活用した」と少し書いてはいたのですが、確かに地域材というところはポイントかと思えますので、御指摘を踏まえて、PRできるように今後していきたいというふうに思います。

(野口麻穂子委員)

2 ページのところに少し記述がございました。私も見落としておりました。失礼いたしました。

(國崎貴嗣委員長)

佐藤重昭委員、お願いします。

(佐藤重昭委員)

25 番「親子で木とのふれあい体験」、23 ページのリクリエーション傷害保険のところ、グリーンボランティア保険、リクリエーション保険、ボランティア保険等、色々あって、本当に多岐に渡っていますが、県の方で団体から評判の良い保険について、把握されていますか。参考までにお聞きしたいです。

(林業振興課：村上主任主査)

ありがとうございます。私もこのグリーンボランティア保険は良いと思って見ておりました。確かにそういった、まさに森林活動、ボランティア活動等、そういうものに適した保険があれば、周知しても良いのかなと思います。

(若生和江委員)

以前にもそういった話が出たときに、各団体で活動の内容が大きく違うので、こういう場合にはこれというように紹介するというのが難しいので、必ず何かしらの保険に入ることのチェックをこの委員会ですましようねという話になったような経緯がありました。なかなか推薦するのも難しいと思うので、それぞれの活動に見合った保険に入っているかどうかというチェックが良いのではないかなと思うのですが、いかがでしょう。

(林業振興課：村上主任主査)

そうですね。何かあった時のセーフティネットという意味合いがあり、実際どういう活動するのかというかなり細かいものがあるので、団体の方できちんと責任を持って実施してもらうこと担保を県が確認するという事かなと思います。先ほど、お勧めしても良いのかなという話はしましたけれど、お勧めをして漏れがあるのもまた怖いということがあったりして、なかなか悩ましいというところで、若生委員におっしゃっていただいたことで、御了解いただければ幸いです。

(國崎貴嗣委員長)

はい。よろしいですか。佐藤重昭委員、どうぞ。

(佐藤重昭委員)

うちの倉庫業だと、倉庫業界の保険をみんな使う訳じゃないですか。これだけ県民税も長くなると、独自の企画をして、保険会社と県で協力してやっても良いのではないかと思ったところ

です。確かに色々な事業があるのですけれども、使い勝手の良いこういうものがありますよと、県が推奨することがあると良いなと感じました。これはあくまでも意見です。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

色々な御意見、御提案がありましたので、県の方で、適宜、調査・御判断いただければと思います。そうしましたら、ここの部分についての質疑、御意見をいただくというところは、終わりにしたいと思います。

最後、「県産材利用促進」というところで、28番、29番のところが残っております。御説明をよろしく願いいたします。

(林業振興課：村上主任主査)

資料3より、下記団体の企画概要書の説明

- ・審査番号 28 団体名「盛岡市」
事業名「盛岡市都南つどいの森遊具整備事業」
- ・審査番号 29 団体名「一関市」
事業名「間伐材加工体験・森林学習事業」

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。そうしましたら、御質問、御意見、よろしく願いいたします。

(國崎貴嗣委員長)

吉野委員、お願いします。

(吉野英岐委員)

最後、一関市のページの真ん中辺に見積書の写しがあるのですよ。損保ジャパンが終わった後に、市産間伐材ベンチの絵があって、その次に見積書があります。

(林業振興課：村上主任主査)

はい。9万6千円です。

(吉野英岐委員)

はい。9万6千円というのは、良いのですが、次のページの見積書の左側は108万円って読めるのですが、右側は10万8千円となっていて、どちらが正しいのかなと疑問に思いました。

(國崎貴嗣委員長)

大事なことだと思います。

(吉野英岐委員)

一桁違うのですけれど、これは、10万8千円が正しいですかね。

(一関農林振興センター：小原上席林業普及指導員)

一関の小原と申します。確におかしいですね。おそらく、10万8千円を出したつもりだと思います。申し訳ございません。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、全てで29件の事業申請がございました。意見等ありますので、それを踏まえて、県の方で適宜、各団体の事業を進めていただければというふうに思います。

ということですね、現在14時18分くらいということで、スピーディに、且つ、円滑に説明いただいたおかげで、予定の時間よりもちょっと早く進んでおります。午後、開始してから1時間ちょっと経っておりますので、5分ほど休憩ということにしたいと思います。開始時間は14時30分からでもよろしいでしょうか。

そうしましたら、再開時間を14時30分といたしますので、お時間までにお集まりいただければと思います。また、ここで、佐藤重昭委員は所用のため退席されます。どうもありがとうございました。

(佐藤重昭委員)

ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

そうしましたら、休憩といたします。

(休憩)

(4) いわて環境の森整備事業モニタリング調査報告について

(國崎貴嗣委員長)

よろしいですか。それでは、再開いたします。

続いては、議題4ということで、資料ナンバー4ですね。いわて環境の森整備事業モニタリング調査の令和3年度の調査報告ということで、小岩さんですね。御説明よろしく願いいたします。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員) 【資料No.4に基づき説明】

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。

なかなか、こういうふうな図とか表を普段御覧にならないような委員の方も多いかと思います

が、写真なんかを見ての感想でも構いませんので、質問、御意見ございましたら、よろしくお願いたします。野口委員よろしくお願いたします。

(野口麻穂子委員)

まず、5ページにシカの食痕、シカ被害があると書いてありましたけれども、いつぐらいから入っていった感じですか。

また、写真を見る限り、そんなに食いつかれるような被害でもなさそうですけれども、他のモニタリングをしているところでも、シカの被害が出ているところがありますか。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

3年後くらいからは見られてはいます。ただ、程度や光によって伸び具合が位置によって少し違っているようなことで、こういった違いが出てきているのかなと思います。他のプロットについても減ってしまっていて、特に三陸の方の根白地区、拝峠、川目等、植被率を見てみますと、根白はほとんど減ってこなくて、10パーセントだったか、15パーセント以下くらいで、10年経っても、15年経ってもというようなところもあります。

(野口麻穂子委員)

ありがとうございます。やはり生えてこないというような写真が撮れてくるときに、シカ被害というケースが結構あるかと思しますので、間伐の後のことについてはもう、植栽や防護柵をするわけにもいかず、どうしようもないのですけれど、説明されるときにも、シカが増えてしまっている以上は、伝えていったら良いのかなと思います。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。佐藤貴美子委員、お願いします。

(佐藤貴美子委員)

モニタリング調査をしていただき、ありがとうございました。

参考までにお聞きしたいのですが、玉前地区の周りの環境について伺いたいのですけれど、広葉樹は何があったかというのは調査の中には入っていますか。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

周辺と言いますと、調査区の中については4ページの表3の方に若干、示させていただいておりましたが、木本種についてですけれども、高木性のものであればコシアブラですとか、中木、低木なのですが、クサギ、カエデ類、エゴノキ、ウルシの仲間とか、ミズキ、ハズキ、そういったものを確認しております。

(佐藤貴美子委員)

ありがとうございます。ちなみにクリとか、直径が太くなる類のものは無かったのか、元々無かったとか、周りには見分けられなかったということによろしいでしょうか。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

そうですね。その高木性と言われるものは何かというと、コシアブラとか、ミズキ、ホオノキ、コゴメといったものが、これから林内の状況によってはもっと大きくなってきます。ただ、クサギのようなものは、2メートルくらいにはなるのですが、やっぱり、天辺まではいかないだろうというものも入っています。広葉樹も、若干見られるというのは状況によってはございます。

(佐藤貴美子委員)

ありがとうございます。山主等に説明する時に、お金になるものというところで、結構耳を貸してくれる、サクラ等、一般的に高価で取引されるもののお話だと、若干耳を傾ける方も多いので、そういったものがないのかなと思ってお聞きしたところです。ありがとうございます。

こちら、ヒノキの植栽のようなのですけれども、ヒノキが植えられる以前は、何があったのかということとは分からないのですかね。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

そうですね。33年生の時から調査しているものですから、詳しい状況は把握しておりません。

(佐藤貴美子委員) ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

若生委員、お願いします。

(若生和江委員)

ずっとモニタリング調査を続けていただいて、20年というのを目指して、この活動をしているので、本当に貴重な事業だなと思います。ありがとうございます。

その中で、今、シカの害が無ければ、下層植生も見られてきたのだなということが分かったということと、効果として、若干林も明るくなったけれど、また大きくなると元のように閉じてきたなというものの、両方が分かり、見える形の資料ってありがたいなと思いました。20年経ったその後を考える時には、この資料がとても大事なかなと思います。

また、そうなったその後に、環境の森整備事業で整備した森を整備していくのかということを考えていく時に、色々なところを調査してみて、人が手を入れてまだ経済林としてやっていった方が良い森林と、ここは手を入れたけれど、再度は難しいなという森林と、区別が付いた部分があります。本計画がどうだったか、その後また同じ事業で繰り返すのか、違う地域の人が地域の森を何とかする方法を考えていくのかという時にも、この資料がとても大事なかなと思うので、この後を考える時の参考にさせていただきたいと思いました。ありがとうございました。

(國崎貴嗣委員長)

他、いかがでしょうか。

(吉野英岐委員)

今回はヒノキの調査ですが、これは全体的には、整備事業でやったところが多いのですよね。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

はい。

(吉野英岐委員)

そうなりますと、スギでもほぼ同じようなことが生じていると考えてよろしいでしょうか。

(林業技術センター：小岩上席専門研究員)

調査部の中でだけの話ですけれども、今回、ヒノキの玉前1が、かなり成績が良い。下層木が反応してきているものでは一番はっきり見えています。次が去年調査化してもらった栂峠というところが、スギ林なのですが、類似した感じですが、8メートルとか9メートルは、いってないですが、似たような感じには見えております。

一方で、先程もお話ししましたが、シカの居るところで、根白とか川目というところでは、間伐したのだけれど、樹木の方もシカに食べられてしまったということも確認はしております。環境の森全体でどういったバランスなのかは、私の方では確認取れていないです。

(國崎貴嗣委員長)

補足しますと、モニタリング調査以外のものとして、写真は定期的に撮っていただくという形で、施工地の現地調査ということでやっていただいています。資料を使って分析した限りでは、残念ながらヒノキはたまたま選ばれていなくて、スギが大体8割くらい、アカマツとカラマツが残りの2割を占めているというような量だったのですけれども、スギが大半という状況で見ると、混交林誘導伐をして、大体10年くらい経った頃には、それこそシカ被害が無いと思われる部分については、ほぼ100パーセント、低木層の広葉樹の層というのは確認できるということが推定されました。

しかし、写真撮っていただいたのは、大体100箇所くらいあるのですけれども、その内2箇所くらいは、常に今回の根白みたいに、何も生えていないという写真がずっとなっているということなので、シカ被害というのは、特にそういった害が強いところというのは混ざっているので、先ほど、野口委員がおっしゃったように、基本的にシカの被害が無ければ、広葉樹は生えてくるということなのです。

ただ、シカの害が酷いところは、残念ながら何も生えてこないです。要するに、混交林誘導伐をした効果というのは、少なくともそういった植生には現れてこないことになりますので、スギの場合も基本的には、今回の御報告と同じようなものだと捉えていただいて結構だと思います。

それから今回、ヒノキのものは、基本的には同じような設計で混交林誘導伐をしているのだけれども、結果的には、その玉前2という方の混み方というのが、若干早く混んでしまっているが故に、シカ被害もあるのだけれども、プラス、ヒノキの成長が、若干早いのか、早く林内が暗くなりやすいという状況が現れています。その2つの影響というのが出て、玉前1が理想的な状態での広葉樹の発達というのが、見らなかったのかというところがありますので、シカ被害が無ければ、生えてはくるのだけれど、今回のようなケースでは、同じように間伐をしたはずなのに、場所によって、微妙にその後の広葉樹の成長の仕方が違うというようなことが見られるので、こういったモニタリング調査ですとか、写真を使うかどうかは別にしても、何年かの調査というのを定期的に行って、状況を把握していくということが、混交林誘導伐をした林分の20年以降の取り扱いというのを考える上で大事になるだろうと思っています。貴重な調査の報告をいただきました。

ということで、大体予定している時間となっておりますので、先に行かせていただきたいと思えます。一応、具体的に挙がっている議題というものは以上なのですが、「その他」ということで、事務局の方で何かございますか。

(林業振興課：田村振興担当課長)

事務局からはございません。

(國崎貴嗣委員長)

そうしましたら、委員の皆様から何かございますか。では、野口委員、お願いします。

(野口麻穂子委員)

資料 2-1 の植樹祭の件なので、7ページになります。ここに書いていないだけだと思うのですが、おそらく植樹祭の建築物とか木製品などにおいては、県産材が使われるかと思うのですが、その辺りの計画とか見込みとかがあれば、伺いたく思っていました。また、それらも積極的にPRされていければよろしいかと思えます。植樹祭が終わった後の再利用とかを検討されるのであれば、それもアピールしていったら良いのではないかという話を昼に皆でしていたのですが、その辺りも御検討いただければ良いのではないかと思えます。

(林業振興課：工藤総括課長)

植樹祭につきましては、岩手県で開催されるということで、岩手県の木がどれだけ色々な樹種があり、どれだけ素晴らしいものがあるかということ、全国の皆さんに知っていただくということが目的の1つでありますので、今回整備する木造の関係のものについては、基本、可能なものについて全て県産材です。また、そういった使われているものについて、先ほど担当の方から話がありましたけれど、ホームページであるとか、色々な広報物の中で、その辺をお知らせするような形になっております。今回造る建物なども植樹祭で使った後に再利用するようなことを前提で発注しておりますので、設置する場所については、未定ですが、高田松原の周辺の運動公園の施設に、東屋みたいなものを造る予定にしておりました。若干その変更等がありますので、こういった形でどこに設置されるかというのは、これからですが、基本はそういう形になると思えます。

(野口麻穂子委員)

ありがとうございます。もう1件、言っても大丈夫ですか。

(國崎貴嗣委員長)

どうぞ。

(野口麻穂子委員)

資料の1-2の「意識アンケート調査の結果について」についてです。私自身はアンケート調査の解釈とかというのは、専門外ではあるのですが、これを見て、興味深いなどは思っていて、県民税の取組の中で重要と思うものについて、「伐採跡地への植林」とか、「被害木の伐採処理」、「松くい虫被害木の除去」といったものが、かなり上位にきているということで、これとかおそらく、最近目立っているものというのが上位にきているのだなと感じました。

おそらくこの事業を始めた頃は、「間伐遅れで山が荒れています」みたいなことを林野庁の方でも大々的に宣伝していて、そんなに主伐していなかった頃だったので、それは結構目立っていたのであろうと思うのですが、今、一般の方の目には森林で起きていることが、目立って映っているのかなと感じました。

ただ、一般の方にとって、目立つものというのはどんどん変化するし、それに伴う需要みたいなものは、変化が激しいのですが、森林そのものはロングスパンで考えていかなければいけないことは、私たちも分かっているし、県の方も皆さんお分かりだと思いますので、このスタートしたときの趣旨というか、本来進めなければいけない間伐の部分については、やはりきちんとこのまま進めていただくことが大事かなと思います。

一方で、こういうふうに、県民の方に森林が映っていると、この事業のアンケートとして分かってきたので、他の事業をしている部門と情報をシェアするなどして、一般の方が感じている課題、新たに出てきた課題ももちろん、実際に新たに課題として発生してきた部分もあると思うのです。例えば、再造林率が中々上がらないとかということも含めてあると思いますので、そういったところの解消に役立てていただければ良いのかなと思います。

(林業振興課：工藤総括課長)

ありがとうございます。今回、第4期に移行するに当たって、これまでの間伐が遅れている所の整備に加えて、色々な森林を取り巻く環境の変化に応じて用途の拡充というものをしてきたわけですが、次に行く際にもすでに議会の方から「用途の拡充をもっとするべきではないのか」ということが出てきていますので、その時の議員からの意見、このアンケートのようなものを踏まえまして、今後、委員の皆様方にも、その辺についてお伺いしたいと思っておりましたので、引き続きよろしく願いいたします。

(野口麻穂子委員)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

(國崎貴嗣委員長)

次年度の委員会のどこかで、そういったことについても自由に発言する機会というものを作っていたら大変ありがたいなと考えておりますので、ぜひその辺、御検討いただければと思います。そうしましたら、よろしいですか。

そうしましたら、今日午前中から長きにわたって、色々と御意見、御質問等をいただきまして大変ありがとうございました。委員の皆様、大変お疲れ様でした。ということで、事務局の方にお返ししたいと思います。

3 閉 会

(林業振興課：田村振興担当課長)

國崎委員長、長時間にわたり円滑な議事進行司会について、大変ありがとうございました。また、委員の皆様、本日はありがとうございました。ここで事務局より、次回日程について御連絡いたします。

(林業振興課：澤崎主任主査)

令和4年度の第1回の評価委員会でございますが、6月2日、木曜日、午後からで、会場はまたここになる予定で準備を進めておりますので、日程の確保をお願いいたします。

細かい内容としては、4年度の実績状況と県民参加になるかと思っております。以上でございます。

(林業振興課：田村振興担当課長)

以上をもちまして、令和3年度第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。